

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：23501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520299

研究課題名(和文) タゴールの英語文学の全体的把握を通じたインド英語文学像の見直し

研究課題名(英文) A Review of South Asian Writing in English Through a Comprehensive Study of Rabindranath Tagore's English Literature

研究代表者

大平 栄子(Ohira, Eiko)

都留文科大学・文学部・教授

研究者番号：20160616

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：現在までに出版されているラビンドラナート・タゴールの膨大な英語著作(詩、小説、戯曲、エッセイ、講演、小曲)を網羅的に収集・分析し、南アジア英語文学史におけるタゴール文学の占めるべき位置づけを明らかにした。今回の研究により、南アジア英語文学の体系的把握に向けた第一歩を踏み出すことができた。さらに、日本におけるタゴール文学の受容と研究動向について検討し、タゴール研究についての意義と課題を捉えなおした。

研究成果の概要(英文)：I COULD COLLECT AND ANALYSE ALL THE WRITING IN ENGLISH WRITTEN BY RABINDRANATH TAGORE (POEM, NOVELS, DRAMAS, ESSAYS, LECTURES, AND SONGS). CONSEQUENTLY I COULD GRASP THE FULL EXTENT OF TAGORE LITERATURE IN ENGLISH. THE PURPOSE OF MY RESEARCH IS TO MAP THE SIGNIFICANCE OF TAGORE LITERATURE IN A HISTORY OF SOUTH ASIAN ENGLISH LITERATURE IN ORDER TO SYSTEMATIZE SOUTH ASIAN LITERATURE STUDIES, AND I COULD TAKE A IMPORTANT STEP TOWARD IT. I ALSO ABALYSED HOW TAGORE LITERATUFE HAS BEEN STUDIED IN JAPNA, ANDCLARIFIED THE IMPORTANCE AND ISSUES OF TAGORE LITERATURE STUDIES.

研究分野：人文学

キーワード：英語 文学 南アジア

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者はインドのデリー大学大学院客員教授としてインドに滞在し始めた 2000 年 12 月から継続してインドおよび南アジア英語文学に関わる研究を進めてきた。2011 年のタゴール生誕 150 周年記念学会事業主催者および、インド内外のタゴール研究者と連携をとりつつ、共同研究を遂行してきた。

(2) 2010 年デリー大学教授で、タゴール文学研究論文集の編集者でもあるマラシュリ・ラル氏とタゴールのジェンダー観についての共同研究をおこなった。氏の協力を得て、タゴールの未公刊文献を含む資料収集を行った。

(3) タゴール研究者が設立にかかわったヴィシュバ・バーラティ日本学院（現在は日本語学科）を視察し、タゴールの設立理念がどう生かされているかについて学科所属の教授陣に聞き取りを行った。また、歴代の教授が寄贈した貴重なタゴール関連の研究資料を収集した。国際タゴール大学の研究者と研究の打ち合わせ、意見交換をし、研究協力について依頼し、快諾をえた。

## 2. 研究の目的

本研究は、近年の研究遂行の途上で生まれた以上のような問題意識にもとづき、**インド本国においてすら評価の分裂しているタゴールの英語文学を取り上げ、その全体像の解明と世界文学史上への位置づけを試みようとするものである。**南アジア英語文学の重要なテーマの一つである「分離独立文学」に焦点を合わせて研究を遂行することにより、南アジア英語文学の体系的把握とその文学史上の位置づけに向けての第一歩を踏み出すことを目的にしている。

(1) かかる視座からの考究によって、**宗主国-旧植民地・英語文学-現地語文学という二元論的な視座から把握されがちな既存のポストコロニアル文学研究に対し、方法的な面でも根本的な再考を迫る。**

(2) タゴール文学の革新性をジェンダーの視点から解明し、欧米のジェンダー研究の欠落部分を補い、あるいは再考する。これにより、方法的な面からもこの分野の研究の深化を図ることを目指している。

## 3. 研究の方法

(1) 現在までに出版されているタゴールの英語著作（詩、小説、戯曲、エッセイ、小曲など）を網羅的に収集し分析を加えることによってタゴール英語文学の全体像を把握する。

(2) タゴールに関する最新の研究書を集め、研究史の整理を行なう。

(3) 国際タゴール大学に一定期間滞在し、未出版資料を収集し、研究者と論集出版に向け打ち合わせを行う。

(4) タゴール国際学会に網羅的に参加し、研究者たちと意見交換する。

## 4. 研究成果

(1) 基礎資料の収集については次のような成果をあげることができた。従来内外における研究では以下のような網羅的資料収集はなされてこなかったことである。

①現在までに出版されているタゴール英語文学の全ての資料を網羅的に収集することができた。英語文学テキストのほか、地方語のテキストの中で英語に翻訳されたテキストについても収集できた。

②タゴール国際大学、および、インド文化省図書館、タゴール・ハウスのみで閲覧できる資料について、コピーを作成することができた。

③スコットランド・タゴール協会主催の国際タゴール学会および、国際タゴール大学主催の学会（招聘）においてタゴールについての貴重な資料を収集することができた。

④関連資料である、日本および世界のタゴール受容についての代表的研究書を網羅的に収集できた。

(2) この課題に関する内外の代表的研究者たちと意見交換し、インド、日本、イギリス、チェコ、アメリカなどのタゴール研究の現状と問題点を確認した。タゴール研究がインドにおいてすら系統的になされていないこと、これらの国においても誤解がみられることなどを確認した。

(3) この課題に関する代表的研究者たちと共同研究を行なった。24年度においては、ラビンドラナート・タゴール生誕 150 周年を記念する国際学会へ招聘された折（エディンバラ）に、内外の代表的たちと意見交換することができ、ベンガル語の著作の英訳化が完成しておらず、インド本国においてもタゴールの全体的理解が進んでいないこと、ジェンダー視点からの研究が乏しいこと、インドにおいても、エッセイ「人間の宗教」など、十分考察されていないテキストが多いことなど、研究の現状について確認することができた。

(4) 上記の資料の読解・分析および共同研究の結果、タゴール文学の全体像を把握し、問題点を整理することができ、南アジア英語文学の体系的把握に向けた研究の第一歩を踏み出すことができた。

①ラビンドラナート・タゴールはアジア人として最初にノーベル賞を受賞した作家であるにもかかわらず、インドにおける英語著作に対する根強い抵抗感から、いまだにすべてが英訳されていない作品があること、また活字化されていない作品も多いことを確認し

た。

②タゴール英語文学の総体を把握した上で、それがインド、パキスタン、バングラデシュ英語文学全体の中においてきわめて重要な位置を占めることを確認した。また、研究史の整理を行った結果、神格化されているインド本国（特にベンガル）においても、総体的・体系的究はきわめて乏しい状況であることを確認し、その特質と課題を整理した。

③個別テキスト分析の結果以下のようなタゴール文学の革新性、独自性が明らかになった。19世紀末および20世紀初頭において、タゴールは他の世界文学において探求されることのなかった女性のセクシュアリティを真正面から取り上げ、新たな女性モデルを提示しているという点で、タゴール文学はジェンダー視点から革新的である。また、タゴールの宗教観、芸術観は同時代を生きた岡倉天心や宮沢賢治との比較において、一層その独自性が際立つと同時に、「大きな物語」を脱構築した後の時代においてなお、その可能性を問いかける文学という点で、重要である。

(5) 以上の研究成果を毎年ハワイの人文国際学会で発表し、内外に発信することができた。南アジア英語文学研究者としての視点からタゴール文学を分析することを求められ、23年度において、インド文化省、ベンガル・アジア協会、スコットランド・タゴールセンター主催の国際タゴール学会に招聘を受け、研究成果を発表することができた。それを契機にさらなる共同研究の申し出があり、さらに、国際タゴール大学の歴史学科、およびジェンダー研究センター編集のタゴール論文集への寄稿依頼を受け、2015年に出版予定である。また、日印関係国際学会に招聘され、研究成果を発表することができた。南アジア英語文学の体系的把握へ向けた第一歩としての、インド英語文学研究書を仕上げ、5月に出版予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① OHIRA EIKO, "Tagore's Narratives of Female Revolt and Jouissance" (Hawaii International Conference on Arts and Humanities Proceedings12) 査読有, 2015, pp. 264-83.
- ② OHIRA EIKO, "Complex Growths: Ice-Candy Man and Sisterhood" (*Illuminati: A Transnational Journal of*

*Literature Language and Culture Studies* 5) 35-46 頁、  
査読有, 2014

- ③ OHIRA EIKO, "Rabindranath Tagore and Miyazawa Kenji: Toward a Larger Self."(Hawaii International Conference on Arts and Humanities Proceedings11)1534-1550 頁,2014. 査読有
- ④ OHIRA EIKO, "The Thousand Faces of Night: A Counter Narrative of Bleeding Womanhood" (*Ariel* 42.3)9-17.頁, Oct.2012.査読有

[学会発表] (計 4 件)

- ① OHIRA EIKO, "Tagore and Japanese Writers" Hawaii International Conference on Arts and Humanities, 2013年1月10日、ハワイ、ヒルトンホテル
- ② "Tagore and Japanese Poets"国際スコットランド・タゴール協会主催タゴール生誕150周年記念タゴール国際学会、2012年5月5日、デディンバラ、Napier 大学

[図書] (計 4 件)

- ① OHIRA EIKO, "Rabindranath Tagore and Miyazawa Kenji: A Vision of a Supreme Self." *India-Japan Relations: Transforming into Potential Partnership*. Ed. International Center for Southeast Asian and Pacific Studies, Sri Venkateswara University. 75-89 頁 2014.
- ② 大平栄子「シータ像の変容—インド英語文学における寡婦」ジェンダープログラム7周年記念出版委員会編『ジェンダーが拓く共生社会 (論創社) 54-74 頁 2013年

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計◇件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大平 栄子 (OHIRA EIKO)

都留文科大学・文学部・教授

研究者番号 : 20160616

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号 :

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号 :